

# あせび温泉 やすらぎの郷

Asebi Onsen Yasuraginosato  
(徳島県板野町)



銭湯愛好会・東京支部として初めて徳島県の温泉を取材することとなった。取材班は、東京から明石海峡大橋を経由し、鳴門に入った。鳴門で大塚国際美術館、海鮮料理屋であるびんび屋を訪問後、板野町にあるあせび温泉 やすらぎの郷へやってきた。

大塚国際美術館は、何もかもが普通ではない。まずはその建物。山を削って建物を造り、その後埋め戻したという。まるで地下要塞のような構造なのである。そして展示している美術品はすべてが偽物。いや、偽物と言っては失礼なので言い換えると、大塚製菓の関連会社が保有する技術を使用して、タイルに原画の画像を焼き付けたものだ。もちろん著作権者の了解はとっているという。さらに普通ではない点として、館内の写真撮影が自由であり、作品に触ってもよいことである。ここに来れば、世界的に有名な美術作品はほぼすべて鑑賞することができる。美術史の勉強にはもってこいだ。加えて、無料で有名な作品のモデルになれるコスプレコーナーまで完備。美術館というよりは、美術テーマパークといった趣である。

昼過ぎに訪れたびんび屋では、店の外まで客の待ち行列ができていた。おかげで、外にある生簀から活魚が取り出され、その場で「処理」される様を見物することができた。店の回転は速く、それほど待たずに席に案内され、「おまかせ定食」を注文すると、ものの数分で料理が出てくる手際の良さだ。この時期、ハマチが旬だ。身はとても弾力性がある。天然ものだからなのか、新鮮だからなのか理由はわからないが、絶品であった。

さて、前置きが長くなったが、あせび温泉を紹介する。館内は珍しく土足で入る。下駄箱は脱衣室の

中にあり、下駄箱のカギをそのままロッカーのカギとして使う。ロッカーの数は96個。脱衣室には他に洗面台5個、ドライヤー5個、冷水器がある。

浴室に入るとすぐ脇にサウナがある。サウナ室内温度は100℃。定員は14人くらいだ。あまりに熱いので、できるだけ上段へは行かないようにした。サウナはドライサウナであるが、パンフレットによればミストサウナもあるという。おそらく、本日は女湯がミストサウナだったのであろう。サウナの横にはシャワーブースがあり、さらにその横には水風呂がある。定員6人分はありそうな大きな水風呂で、水温は18℃とそれほど低くはない。この手の温泉へ行くと、お年寄りが平気な顔をして水風呂に入っていることが多い。心臓に負担にならないのか心配になるが、慣れなのだろうか。

洗い場は20か所。シャンプーとボディーソープは完備。シャワーの水圧は少々物足りない。洗い場の奥には特殊なシャワーブースがある。一つは巨大なシャワーヘッドを持つブース。通常のシャワーヘッドの4倍はあろうかと思われるサイズだ。これで土砂降りの湯を浴びることが可能だ。もう一つのブースでは横からの水流・ボディマッサージを楽しめる。

内湯の浴槽は2つ。大風呂は定員50人くらいで、端に座風呂3人分とジャグジーがある。もう一つは「源泉薬槽」と紹介されている定員8人程度の浴槽だ。おそらく、くみ上げた源泉を（加温はしていると思われるが）ろ過処理や循環せずにそのまま供給しているのであろう。湯温はいずれも適温である。

露天風呂は定員15人程度。底に大きな石が敷き詰められているので、少々歩きづらい。浴槽の横には打たせ湯が2人分ある。これがなかなか良い。水流は高さ3mのところから落ちてくるが、これを甘く見てはいけない。それなりの衝撃力があるのだ。より高い衝撃を得たければ、置いてある椅子に座って落差を稼ぐ。水流を肩に充てれば、肩こり解消に効く。湯が飛び散るので、周囲の人に配慮する必要はありそうだ。

ちなみに、あせび温泉の湯は「温泉法第2条該当泉質」とのことだ。法律上「温泉」に該当はするが、効能等の記載はなぜか差し控えられている。それでも泉質はアルカリ性で、お肌をつるつるにしてなめらかにする効果は期待できるという。

あせび温泉 やすらぎの郷は、その名の通り、やすらげる場所だ。

## DATA

名称	あせび温泉 やすらぎの郷
所在地	徳島県板野郡板野町大坂字棕木原 30 番地 1
電話	088-672-1126
営業時間	10:00~21:30 (最終受付 21:30)
定休日	水曜日 (祝日の場合は翌日休)、年末年始 (12月29日~1月3日)
入浴料	大人 (中学生以上) 500 円、子供 (満3歳以上、小学生以下) 300 円、70 歳以上 300 円
サウナ	あり
サウナ内のテレビ	なし
取材日	2019 年 8 月 9 日 (金)
取材	銭湯愛好会東京支部

(本データは取材当時の情報です。あしからずご了承ください。)